

繪本豐臣勲功記

三編

三





繪本豊臣勲功記三編三之卷

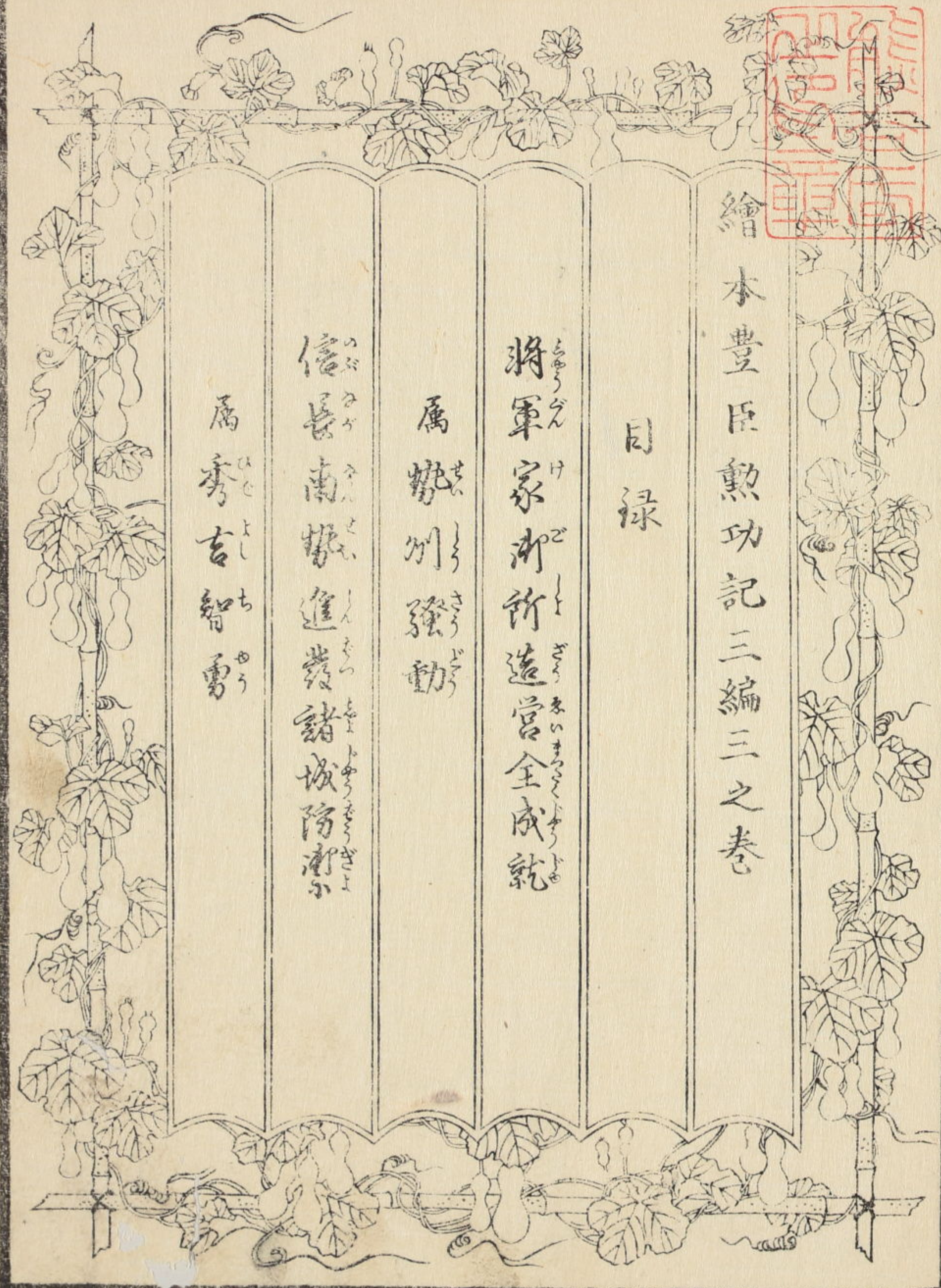
目録

將軍しんぐん家け新しん造ぞう宮みや全ぜん成せい統とう

屬しゆ州しゅう強きやう勳くん

信のぶ長なが南なん嶽たけ進しん發はつ諸しよ城じやう防ぼう漸ぜん

屬しゆ秀しゆ吉きち智ち勇ゆう



大河内攻本下授謀池田

属 信魁 破レ構

坂井 父子 騎取 小方 摠構

属 楠 練夜 段

繪本豊臣勲功記三編卷之三

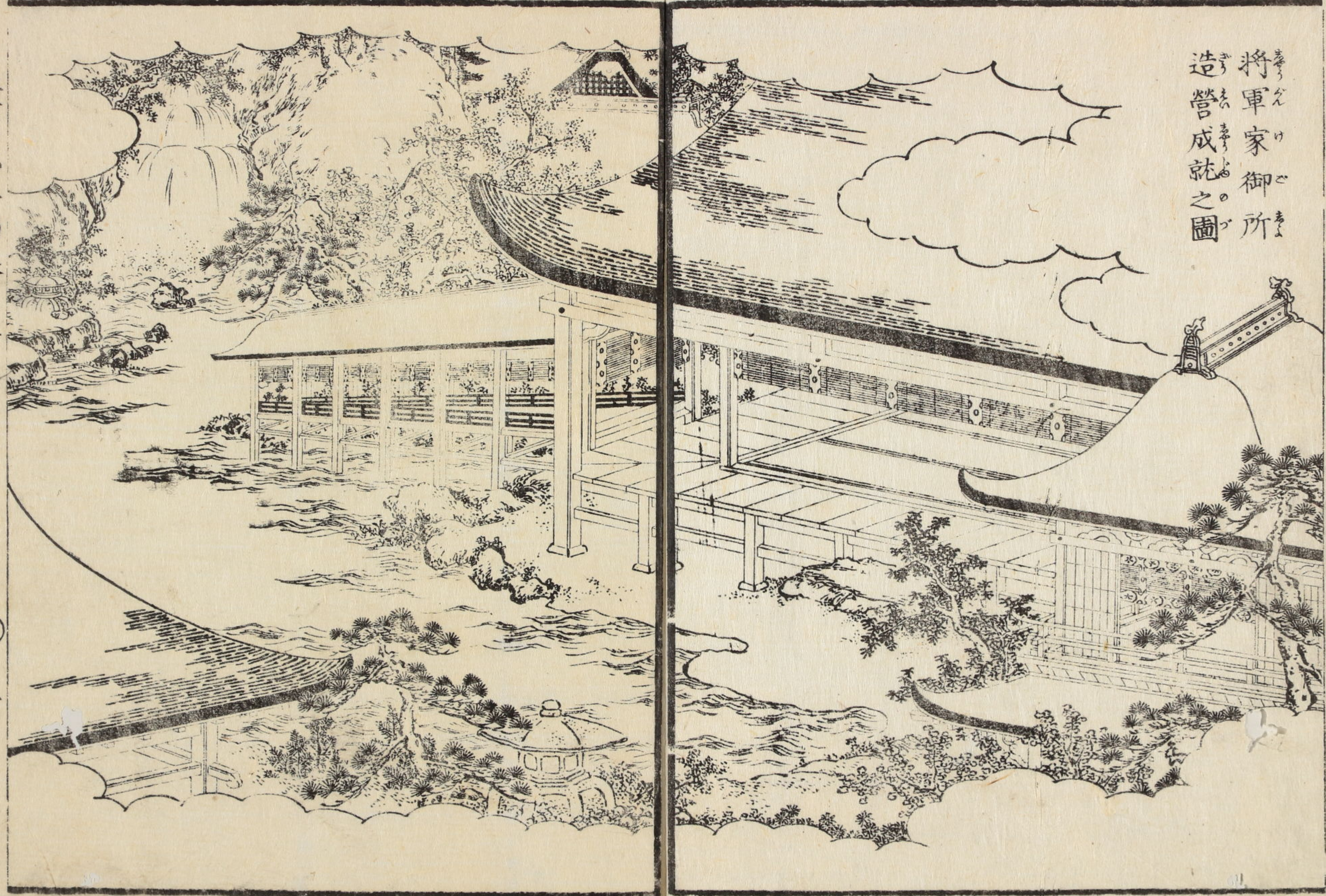


將軍家所造管全成就 属 勢別 發動

江戸 八功舎 徳水 刑補

土類... 時ハ家室その位を失ひ... 坂井... 將憤突して危や大事と見へり... 流きさしめ... 勝家信盛... 浅井の志士... 我意小つ... 後日... 禍を...

將軍家御所
造營成就之圖



ゆりけるに形り信く、彈正忠信長ハ五月十日、京都を發是邦、一をひ、
濃列波阜へ歸る小つた。這遣ハ亦下も一、亦小坂國のよしと告られ、こも將
軍家と初めあつせ、禁中より今志らく、京都靜繼の朝と見え、まを、
安んじたる命を、是非多く秀吉を、當えらまたり、其も、圖き、茲小ま、こ、伊勢の
國司小島、の族中、小馬、て、希有、ある、發動、を、出、来、り、ぬ、願、を、仔細、小、鞠、ま、び、
頃ハ、同、年、其、夜、物、具、敷、入、道、の、弟、小、本、造、の、家、に、枕、續、せ、し、本、造、中、將、具、正
との、者、あり、其、子、を、左、衛、門、佐、長、正、との、然、る、小、具、正、の、養、父、中、將、佐、茂、は、
長、男、具、康、小、婿、男、子、あり、り、る、が、小、島、は、胤、を、り、り、る、本、造、の、家、を、継、ぎ、し、
心中、大、小、ま、ま、と、恨、む、我、こ、そ、本、造、の、血、脈、を、ま、と、お、ひ、ひ、ら、が、ら、も、詮、方、あ、け、ま、
違、小、法、師、と、あ、つ、て、源、城、院、小、住、職、を、此、僧、少、智、こ、く、ま、し、く、亦、古、も、又、勝、を
たり、出、家、形、り、ら、も、勇、猛、小、て、槍、刃、弓、馬、の、技、を、好、む、力、量、も、拔、群、あり、た、れ、バ、

事、出、来、よ、し、厥、响、を、還、信、ひ、し、て、本、造、の、家、を、與、え、ん、と、窺、居、り、又、本、造、は、
老、臣、松、桂、之、弟、左、衛、門、の、小、者、あり、こ、も、具、正、長、正、小、坂、腹、を、ま、り、て、ま、
と、の、識、り、り、ん、澁、川、一、益、具、小、縁、故、を、所、由、より、方便、を、出、来、こ、こ、と、松、桂
之、弟、左、衛、門、が、諱、へ、密、使、を、遣、し、北、畠、家、の、政、事、善、へ、其、國、將、小、減、び、ん、と、を、
門、を、速、く、遠、慮、を、遠、ら、し、子、孫、相、續、の、計、後、を、ま、こ、そ、肝、要、な、れ、を、計、後、
小、ハ、織、田、家、小、婿、也、。將軍、家、の、清、自、言、小、本、造、は、亦、古、者、が、故、安、途、し、て、
亦、縁、縁、不、相、遠、き、と、初、め、り、る、小、ぞ、之、弟、左、衛、門、も、禎、て、より、思、起、り、し、亦、あり、
亦、く、澁、川、が、初、め、小、隨、ひ、織、田、家、小、婿、也、。將軍、家、小、本、造、將、佐、重、直、お、い、せ、
ま、び、ら、家、も、我、身、も、安、穩、あら、ん、と、思、定、め、て、使、者、小、返、事、し、彼、源、城、院、小、相、
禮、し、る、小、歡、で、回、心、せ、し、る、。這、遣、を、之、使、さ、し、澁、川、が、伴、へ、遣、し、て、回、意、の
よし、と、告、り、一、益、が、び、り、り、亦、初、び、管、應、を、之、猶、子、と、ま、し、の、還、信、せ、こ、を、

て苗字を興へ龍川三浦公衛一雅とぞ号らせり。あまふすりて柘植と
 龍川と菅志と管合。然して后計を廻らし。本造父子を屋敷させ。
 素石の城へ透引して。龍川一益小舎面。信長の自方とあり。其の具
 敷入道大不怒り。柳子心中の忠を以て。如右少の善置をこし。本造等
 を討伐を命じ。と國司大將小て本造へ推進せ。單騎急小攻起り。
 小城中の頼てより。織田家の後援を頼る。此も臆せ。防戦を
 由へ務敷更小分とせり。這响龍川使者せり。信長へ「進進を」。
 龍川時節ぞと告り。進敷の準備せ。小より。國司の軍勢その
 風聞を漏りて。速小人数を遣揚し。信長小も軍馬を敷。至る。
 一應本下を呼返さんと。後合せ。あふ隙小夏過秋小至り。由へ本下
 交代の將士せり。織田新長九信長の七男 武蔵守信長 佐久間右衛門尉村井民部

信長の七男
 武蔵守信長
 佐久間右衛門尉
 村井民部

林佐守河田新之助。遠立人として。將軍家小此言。言快せ
 しく。泰くも義昭公秀吉小別情を懐き。懐きを。あふと。是能はけ。是は。保國
 の禱別を賜らん。とて。藤吉身と。將軍の。所帯。進く。出さ。は。く。左系
 の。勤勞。清ら。と。深更。宿中。靜。靜せ。緯。を。双の。大功。と。謂。つ。よ。つ。ま
 江別。長。濱。城。小。一。万。貫。地。と。添。く。賜。ふ。つ。れ。し。程。意。あり。然。と。も。本。下
 者。吉。吉。守。堅。く。禱。退。し。と。ま。り。禱。別。を。請。せ。し。く。將。軍。家。よ。り
 河直小。取。身。へ。命。被。ま。り。小。を。藤。吉。身。歸。せ。し。信。長。の。所。帯。へ。出。し。是。時
 織田。取。こ。と。を。訊。き。た。ま。ふ。將。軍。家。所。内。意。あり。長。濱。城。を。觀。望。せ。し。む。こ
 命。出。さ。ま。ま。ひ。し。と。何。ゆ。へ。禱。退。あり。つ。ど。不。審。う。じ。と。宣。へ。不。審。吉。守。護。ん。と
 志。長。ハ。二。君。小。仕。へ。と。秀。吉。不。肯。小。仕。へ。也。斯。量。の。禱。ハ。う。け。た。ま。り。ぬ。我
 君。の。所。恩。頂。承。の。像。く。日。々。月。々。小。被。り。て。人。數。も。多。く。率。也。毒。子

豊臣記三編卷之三

不従の多會まで遣はれしこと更ふれあきよハ將軍家の御恩を戴きん
と云ふ二君小仕ふる小ゆらそと也。然小よりく辭退せしもの。別小罷居もこれし
と口意潔白小云吐せし。信長またく感憤しこみひ意替らそ木下
と智勇拔群のこゆら忠信を欲の名士ととあまそび杯揚せられく
目將軍家御恩の深意也。御奉せざるも、女權あり。そやく息命あま
ぐんぐ。と云ふ。そこれ然く後。櫛別出馬と辭決ありりる

信長南勢進發諸城防衛。馬秀吉智勇

福者ハ招うそまごめ世宝集り。徳者ハ説されども世人帰る。仁と智との是
が業あり。信長伊勢と攻る小除きて。本道のま起りし辨。天のりて助る
あり。時小木下言吐そらく。原来伊勢の相富ハ公より出し人小と武士
の家ハあらざるあり。然ると近來國軌を交へて。朝家の貢税も更ふ勢めを

漫小弓馬此道と退とも。今又將軍小も帰向せむ。這等の罪を犯され
征伐しなまえ澤こそ理なき。然ども數代の國司をまは。諸代の家
六七百もありぬ。渠依四方小防さる。容易所本意違さるらん。
小まの君は御威光せりて。御國の株守依と怖懼さるひ然して
利害と説ふ。歸彼なこめ玉ふ澤然とつと勧められ。信長
小も強小もこおがさそ。尾列濃列に別懸中とそ依の大軍七萬有餘騎
輪輸せりて招集め。同來八月申の十日。波卓城と進發せり。九月
兼名小若陣ましく。瀬川たをが推挙せりて。木遠又も若小植と舟
たまの瀬川と舟を舟と親見なさしめ。そは後軍の分隘し。そふん飛
川。將軍營小園の一黨と常副て。森と上野の兩城を懸守を。織田
掃部助小工藤はそと加増し。今井徳信を威さしめ。諸信長

の惣軍の大河内と當り推進せり。越も軍勢を急小進めを本遠
城小一泊日ハ道尚ましまし是秀吉が勅めふよつて諸石軍城の伊勢
武者小信長の威光せ志先させとて核を棄てて降参せしめ計策
されば七万有金に大軍を山林郊野小元満させ隊伍を亂させ列
陣せしめ躰令厳しく徇らしむ。礼坊狼籍の愁る。進退させら
れ足の像。勅軍これを見聞しけ。いこう岩門潰城さるるも遠大
軍を拒抗んことを及びせしと思臆しけり。然れども國司小高目大教
入道不知何因新國司具房。既小信長大軍を率列大河内の進
軍ししを聴しひとく。徳なく和しむ防軍の分撥まは大河内の城中に國
司父子を大將として。二男若野二郎孫教まゝに一隊の勇之助の森本花
弾をせよと彦本彦方徳氏朝少補。林備後をせよと朝之丞との外

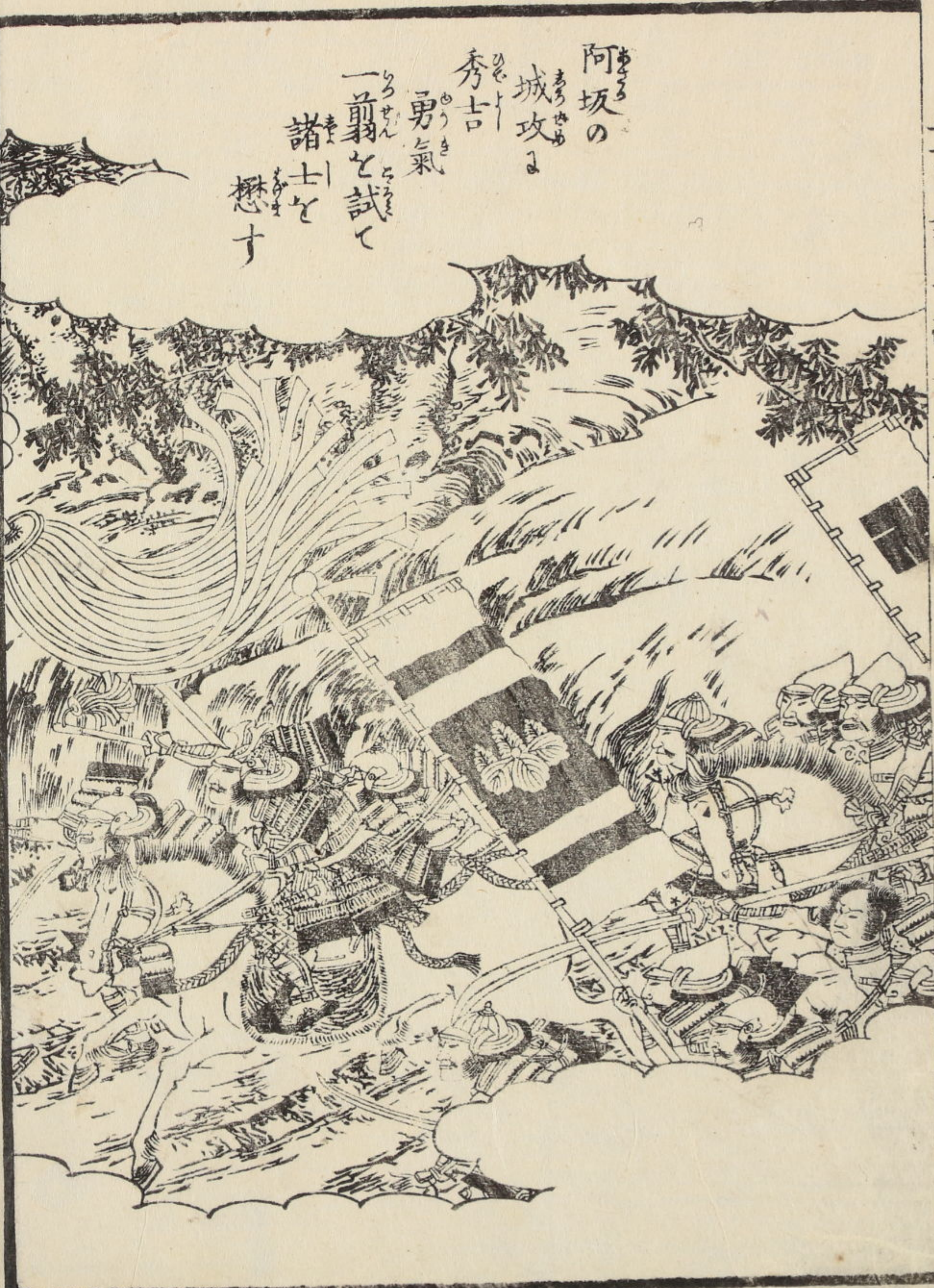
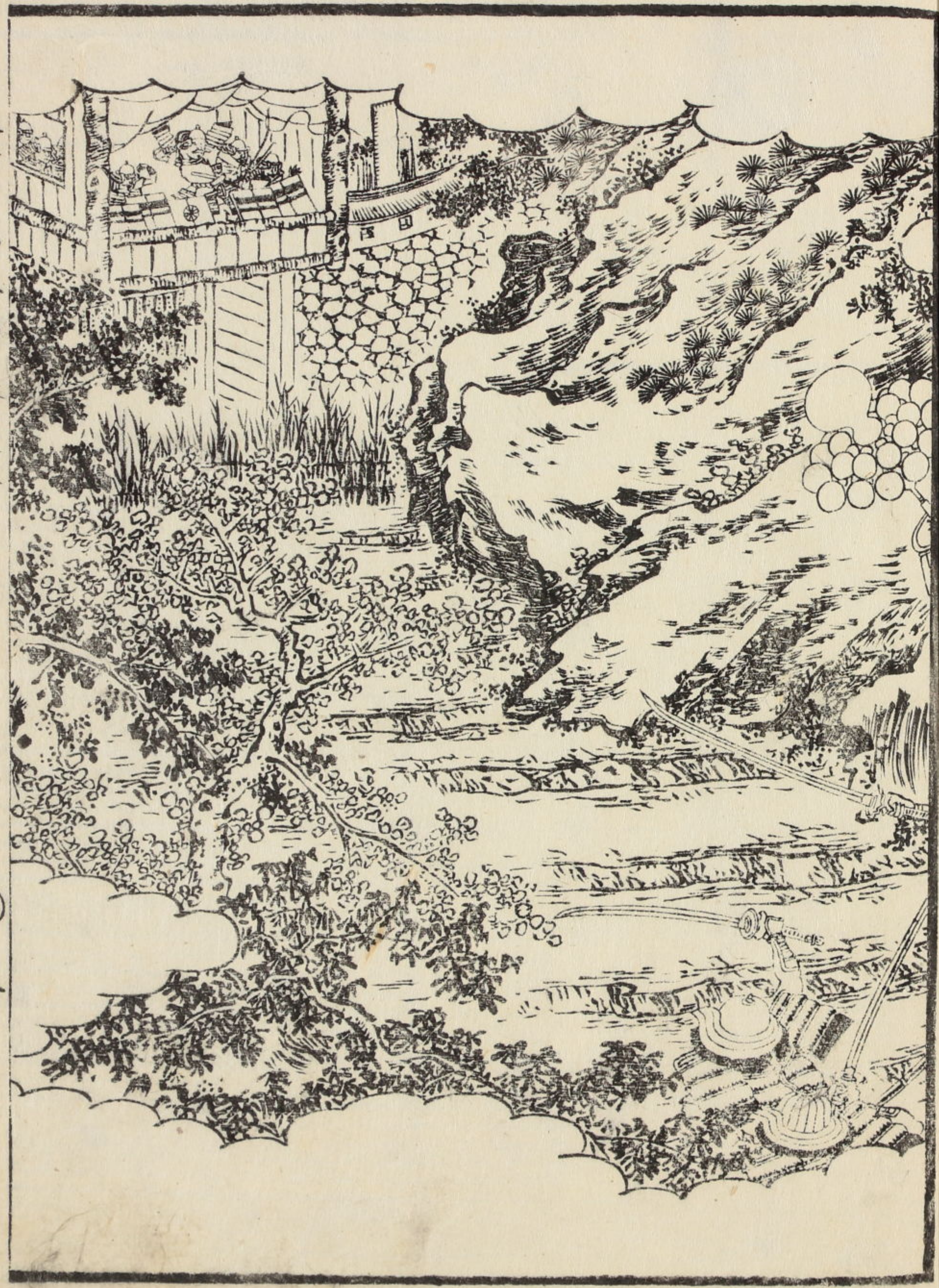
とヤ。尾石見も同共た東の同右近將監水谷玄親大補。同右次郎安保
若狭も同武部少補。同大藏大補。同た門同彈正左衛門同左衛門。元同
次郎市岸江又三郎。磯田彦右衛門。勅之孫之孫を末源なま。同又左衛門
野呂左衛門を山本左馬助若野九郎。朴木集人目置又膳。及井之部半
合た其稻生勅解由水野勝次郎。阪曾彈正大内山但馬守と將し
して南五郎の軍兵軍敷とす。一て守城せり。備捕城の諸將と謂はれ使山
中ノ奥山常陸分上野の城の藤方將監。坂坂の城の城守又宮入道。三同
苗又之丞。岩内城の岩内右兵衛。八田清城守。楠七郎。左衛門。つづも防軍
の勇衛者。一鐵田勢進部。微塵小せんと行津せよと儀しゆ。ゆも。惟
大軍に播磨を急。朝日小及と進参らるる。こま小よりて諸城の急と心漸く
恐怖して退屈さるる俾あられ。時をいふと鐵田信長使將を諸城へを

こと。利解せり。初め。従ふも背くもあり。有るは法返着せざるもある。
 中。小幡。行坂の城を。大宮入道。合意。妹。同。嫡子。大之。臣。景行。同。九之。備。備。
 仍。り。も。不。款。の。勇。士。あ。ま。ま。僅。千。余。の。名。士。を。從。へ。軍。城。を。と。り。や。い。て。
 信。長。の。大。軍。を。蟻。蜂。の。像。く。見。侮。り。款。進。来。ら。六。月。小。東。西。親。と。
 城。中。小。幡。を。降。服。寺。を。強。擄。悪。し。く。焼。拂。ひ。款。を。遣。し。と。待。蕪。し。り。
 遠。响。織。田。の。使。者。来。り。て。利。害。を。説。ども。更。小。諾。せ。む。大。小。罵。て。遣。け。り。
 や。う。先。来。勢。北。の。徳。二。病。軍。の。織。田。の。旁。形。小。隠。て。直。地。小。障。矣。あ。り。し。も。
 ども。勢。南。の。武。士。と。忠。義。を。与。て。一。命。を。惜。ま。ら。ぬ。い。う。わ。と。大。軍。の。威。を。
 振。さ。も。も。ど。う。是。武。小。幡。も。た。ん。や。早。く。軍。勢。を。向。ら。ま。し。し。御。家。意。り。さ。ん。
 こそ。準備。の。機。を。察。し。り。我。と。思。え。ん。人。あ。ら。く。禮。礼。礼。を。様。さ。ま。し。よ。と。大。
 高。声。小。幡。と。り。し。り。使。者。を。遣。し。言。し。六。信。長。を。これ。と。亦。以。凍。然。と。

一と怒と發し。悪き大宮が荒る。を儀あり。速小。城へ推進。徹。
 塵。小。幡。對。凝。古。軍。を。と。塵。小。せ。し。と。指。揮。あ。り。り。と。身。考。古。否。と。推。
 止。免。徳。大。軍。を。怖。き。と。懐。死。返。答。つ。う。の。し。ハ。進。兵。小。十。分。怒。と。起。
 さ。せ。て。二。を。こ。小。攻。る。圖。を。計。し。て。敵。と。と。る。り。の。あり。原。保。と。疎。忽。の。軍。
 せ。び。り。船。ら。と。敗。れ。ま。さ。り。け。し。と。姑。く。脱。氣。を。抽。き。ま。る。べ。し。と。練。め。重。を。と。
 小。信。長。も。あ。り。怒。を。結。め。西。之。日。と。過。し。り。し。が。た。也。邊。原。也。
 時。分。ら。ん。小。一。攻。を。て。款。不。受。と。七。萬。余。騎。の。總。軍。を。一。吐。小。縣。波。と。つ。く。
 ら。し。め。天。地。も。裂。破。と。威。勢。少。く。阿。坂。北。城。へ。推。進。し。り。响。小。同。月。廿。七。日。於。
 坂。攻。の。先。陣。ハ。木。下。秀。吉。明。智。光。秀。坂。井。政。尚。依。々。成。攻。只。一。橋。小。と。進。
 たり。し。が。城。中。僅。一。千。余。人。申。小。も。大。宮。入。道。ハ。二。百。余。人。小。て。本。丸。を。固。め。嫡。
 子。大。之。臣。二。男。九。之。備。備。大。助。河。合。之。齋。長。清。櫻。尾。信。一。人。横。山。九。郎。右。衛。

海國三部より勇士八百余人を一隊中へ。想門を守固め進軍を
 進く向引きて時分はしと城上より。砲矢を放つこと雲雨に像く中
 も大宮大と至系行の弓術之双のく練るま。櫓門の寒操小露出法小
 過る大弓小入箭を臂下小高く推上小具是小牙を當固め小矢番ひ
 大言おげ頑く準備さしをる。伊勢原治が排し城がく。疑符東去へし
 と謂も果ぬ小截て放て。魁は進じ騎馬武者が胸より脊を貫けて若
 こもいえささ射落し。是は軍のく初りて。馬股端は差別を。的責
 ひさつめ。後小一矢小二強の射徹をも。徒矢の更小なり。進軍大軍
 ありとゆへも。遠弓精小辟易して。前へ出るを。取次小ありて見り。せ意
 射しや木下秀吉のく危き軍を避。心勝の利を極極を。進む事のを
 うりもの。眼前自軍のくめれ驟くと大。小怒りて。心魁小進。遂に軍の

振舞る。敵をいり小強くとも。僅小一人が射出を。矢小怖きて。逃る傳
 や。あ。自他とも小武士を。か。り。恥を。顧く。笑る。か。木下が。後
 試ま。我小。續。あ。や。名。軍。と。馬。小。拍。を。突。と。敵。出。を。諸。士。の。こ。こ
 を。視。る。より。も。意。地。ら。一。や。え。ら。じ。や。勝。る。心。利。を。講。ら。ね。小。容易。小。進。ま
 ぬ。木。下。が。形。を。脱。む。必。し。も。攻。ま。る。處。の。所。を。あ。ん。る。と。や。進。め
 と。一。回。小。橋。を。勵。し。て。推。極。く。射。も。撃。とも。事。とも。せ。せ。驚。馬。小。あり
 て。攻。起。ま。い。城。を。頑。丈。小。愾。ま。とも。木。下。が。大。軍。を。防。ぐ。惘。然。ら。る。休。を
 見。る。より。大。之。至。系。行。心。魁。小。指揮。を。る。木。下。を。既。と。瞬。刻。悪。心。敵。將。の。指
 揮。風。を。渠。一。人。が。下。知。小。より。て。遠。謀。既。小。破。ま。んと。を。先。や。渠。奴。を。射。死
 一。と。ま。んと。例。の。鋒。矢。せ。ら。る。番。ひ。密。巻。過。る。を。引。續。り。木。下。月。菟。を。截
 七。放。つ。矢。と。一。枚。小。弓。弦。の。中。より。拏。衛。と。切。り。し。バ。不。思。後。の。り。も。思。る。



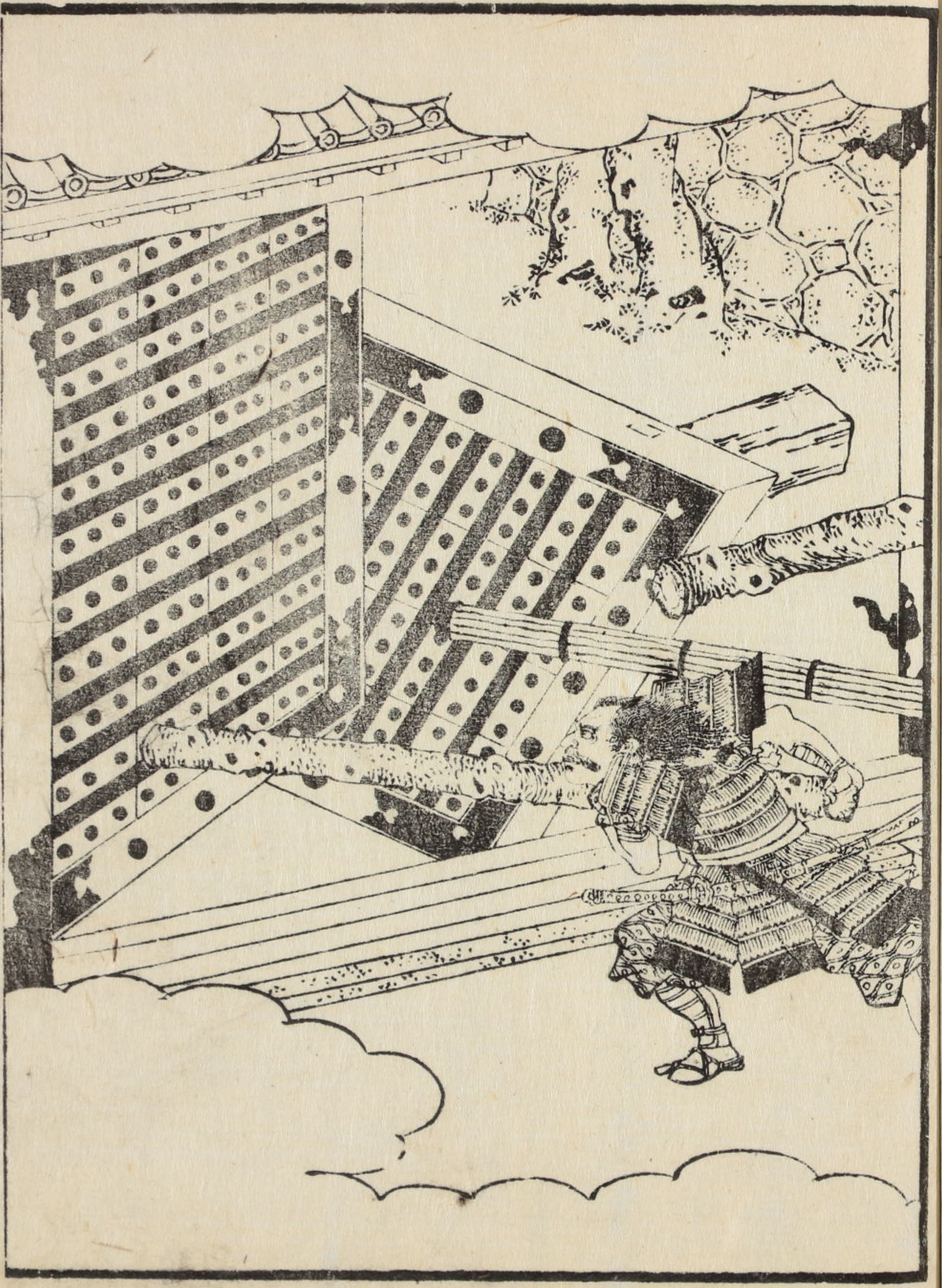
阿坂の
 城攻め
 秀吉
 勇氣
 一翦と試て
 諸士を
 懋す

豊臣記三編卷之三

然ども當夫と殺さむ。藤吉舟が腰小單摺縫く交うけり。
 本下と夫と拵抜て。自軍の士小舟して。曰各款は夫とよく親よ
 や。第東の事と小長けさども。そら拵ハ弱して。秀吉が舟小つと
 比と。掌て痛むこと。覺へむ。是式の矢小弱事久。速攻招や人と。自
 軍と烈生し。指揮し。是バ本下堂の勇士達。獅子奮迅の怒を費し。
 傳が像く小接起し。遂小惣門を撃破。岫々声く。亂入を。寨樓
 の上ゆの火之。亟弓弦切し。怒さども。槍方より。兵を侍と。走らせ。智
 弓は来る。と待やど。小敵や。城中小亂を。招。城を。八方へ斬と。し。久
 途と。夫と。散乱を。大之。型も。朽惜られど。防々。方術の。あら。ざる。遂小
 本九へ。邊投り。本下。急小。追。蒐る。是。城を。八百。余人。の。うち。五百。余人。を。敵
 捉く。残ると。百。比。皆。士。軍。も。過す。ハ。城。を。敷。う。遠。疎。小。惣。軍。身。は。と。乘。る。

破竹の像さ威勢少く。本九の惣構を十重廿重小提圍と。唯一接小
 と。驍とけり。信長前示より。本下。城。の。城。攻。せ。見。敵。と。左。せ。大。之
 臣が。矢。小。つ。軍。の。落。命。せ。ざる。ハ。さ。し。小。藤。吉。舟。一。人。正。魁。小。進。と。勝
 矢。利。と。負。殆。づ。り。事。も。せ。む。と。一。番。小。城。門。を。破。り。と。驍。投。る。その
 取。見。ハ。究。小。機。會。項。羽。の。勇。小。も。傷。り。強。小。九。人。と。い。か。り。い。ま。と。感。賞
 せ。ら。ま。と。猶。休。む。ま。と。者。吉。舟。を。恨。味。は。汝。を。来。日。小。先。急。と。好。ま。ど。
 然るに今日の挙動を傳所つ。和。田。合。戦。小。朝。比。奈。之。前。義。秀。が。所
 不。の。惣。門。を。う。ち。破。り。武。勇。小。か。さ。く。劣。ら。ざ。ら。む。也。儲。の。を。義。秀。は
 名。を。稱。例。して。秀。吉。と。号。り。し。意。驗。小。明。ら。げ。と。稱。嘆。せ。られ。と。自
 藥。を。賜。り。と。姑。く。休。息。と。ま。き。し。惣。小。命。ら。ま。さ。り。本。下。護。ん。で。御。禮
 重。と。ま。り。と。今日。之。謀。の。軍。を。せ。し。も。御。恩。杖。の。ゆ。あり。遠。城。斯。量。乃

藤吉郎の
烈勢
阿坂城の
惣門と
撃破る



小堀少く自軍の大軍を恐臆せど防戦ししこと早小大之堅が分
 小過さるる城を恃むるより小は然るに自公討破さるる進さるる
 國を察量急小進んで作ひしが果て門を破りてい。そもくさるる我
 第一の益益小して。神代の傳の法式をさるる。羅立りてはた大之堅自己
 力のある小任せく。相應さるる馬矢を用ひし。小精神疲るるの如ら
 弓矢もまご断ては固く小居の疵を浅く指て痛もつらまらね。心の傳小指
 揮さるる。張強く攻て漸賢は如く騎破ていと。粟上り小信長ハまをく
 漸感浅くらるる。第一の功とぞ賞せさるる。然ハ織田堀部之像ハ丸の
 四方せらるる。圓と鳥銃着く。放蕩し。城を次小撃滅され僅之百余
 人小是らるる。斯る籠城偶ひさるると大宮入道子息小對ひ不詮防戦の
 今天朝あり。決ても死さるる。今から俺們的らるる降参す。信長對面

ありん。响。逃蕩く。刺殺さんとの小大之堅も是れとよし。寨樓小
 登り。敵中へ降参し。事と音達さるる。信長こそは固く。信長は奴
 軍が奉止るる。殺殺の降参奇蹟多し。救さるると宣ひらるる。昭智光
 秀禱云々。方僅大宮が不義不禮當罪赦さるる。此の如くありぬ。
 倘此軍を漸免さん。此外の城小籠守。倫輩必死とありて防戦
 さるる。然るも六軍難義あらん。小姑く城を降参せ救され諸城
 せ早く帰服あるこそ。要るる。速さるる。信長も遠義小隨ひ。降参
 料理んとあり。玉ふと。木下透て大宮父子の降参ハ。こそ眞實小あり
 届らるる。斯るも。たまふ。と云。信長も。同心ありて降参
 せ。死す。送りぬ。大宮入道大之堅。心中小笑を會。と百余
 人降参し。さるる。木下透を受取て入道父子と降参。一個く小引合

秀吉の神察
大宮父子が
害心せ識
殺さむ



させ大將の所陣へ伴行んと罷り関せ又子討りのせり子小舟小郷也守。
 大和の國へ追放せ。渠依る後せ擧起て國境まで到りたるが遠き殊
 せりもへんとを大宮父子の案小相違。謀戮の期小乃が响天せ作く
 歌とて曰。實小信長ハ名將なり。倘俺們小對面あらばやう安穩と
 しめんや。そも機と悟りて我依父子小面會ざる陣の賢さよと大に叫んで
 伐せり。明智光秀心中小本下が討ひせ深く妬る。衆小向ふて嘲るやう。
 秀吉りかとの智者多から大宮父子を謀せし事。定て大なる小討らば陣
 せ傍りし由小やあらん。それハ私の行作なり。自己が恨小最惜き勇士
 せ謀戮せし系。謀士武士の所為小あらむと縁迄々々誘ふせ所て藤
 吉舟。大小笑てありるが。程なく大宮父子を従せし軍のこも返り
 入道最期小よふ。响強小信長ハ名將なり。倘俺們小對面あらば安穩

少の置まじの法と。賢人よと叫びながら。伐せりしとせしせし。信
 信長を頼め諸將も共小本下こそ恐れ。神小通せし軍隊もこと
 舌を振ふて驚感しつ。明智浅慮を翻して謀る族の多かりし

大河内攻本下投謀池田属池田破構

蟠輝が輝を頼ふ小。琴音忽殺せとくめ。茶筥隣門小入り。
 譬とて小本下が。神察徹底。大宮父子が害意を識こそ不思議
 され。然れど小阿坂落城させし。先や國司の本城も。大河内へ推
 進登し。さて。夜の間に小諸軍を潰せし。曉は八月十八日。信長計七
 萬余騎。大河内城の東あり。桂瀬山小うち登り。面圍背負。左路右路
 四方に分勢せり。さる先東と先陣の大將柴田權六。勝家。森三
 左衛門可成。佐々内藏。助成。政不破。河内中。同者。山田之左衛門。長官。川

興二部。梶原平次部。九毛倉庫頭。同部。多清佐藤。六左衛門。丹羽助助。
 同部。六部。海あり。南の方。菅野上。世々。織田掃部助。稻葉伊孫。池田
 勝之部。丹羽五部。大木。和部。新助。中島豊後守。同勝之部。蒲生
 右衛門。同忠之部。遠藤山城守。山岡。安藤。伊賀。堀
 永田。刑部。地。後。河。等。形。西。方。久。間。右。衛。門。尉。
 同。嫡。子。左。衛。門。右。衛。門。飯。沼。助。平。市。橋。九。部。左。衛。門。氏。家。常。陸。守。安。藤。伊。賀。守。堀
 本。大。膳。阿。岡。澄。路。守。同。部。五。部。之。橋。傳。左。衛。門。等。形。北。方。江。口。小
 等。是。有。り。備。ま。す。柵。際。巡。検。の。役。と。て。前。回。又。左。衛。門。湯。淺。甚。助。福。富。采
 左。衛。門。川。尻。甚。助。生。駒。甚。助。村。井。新。四。部。中。川。金。右。衛。門。生。駒。小。助。長。谷。川
 權。助。佐。藤。孫。八。部。荒。川。新。五。部。澁。川。彦。右。衛。門。等。形。本。下。孫。吉。部

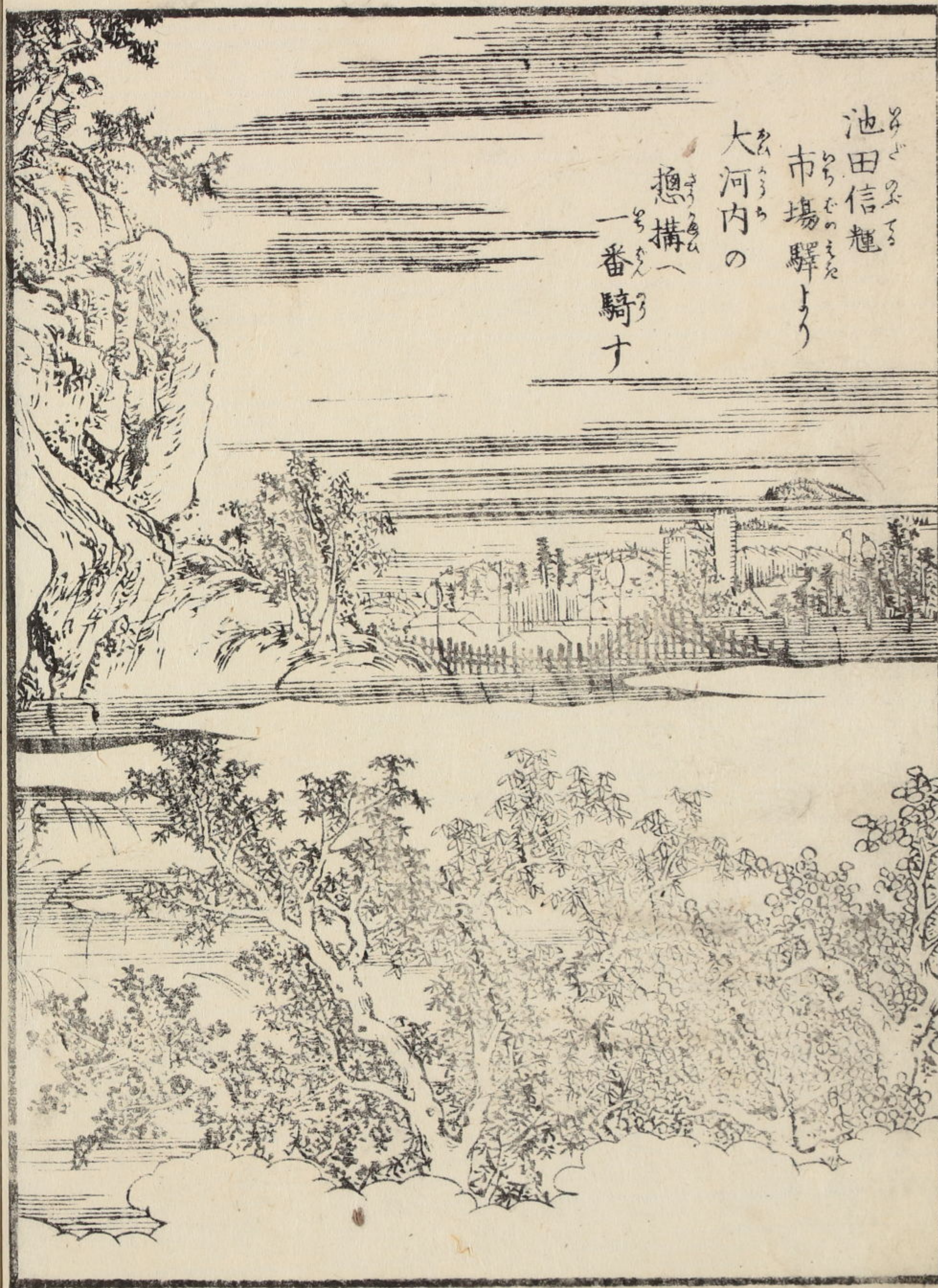
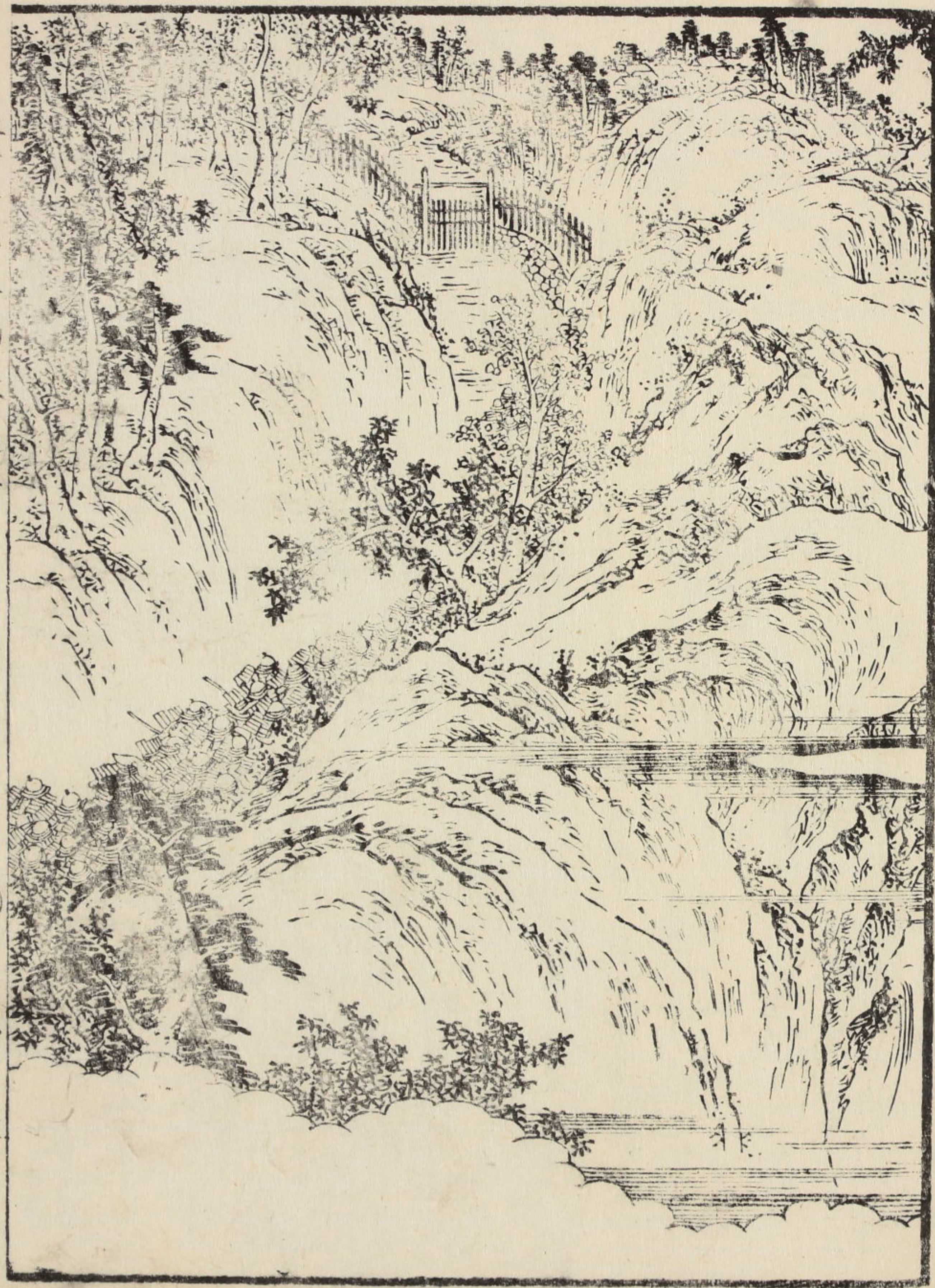
秀吉の昨日阿坂の城攻め。微癪さうも癪を負ひて。養。療。く。ぐ。控。軍
 とあり。弱。く。え。隊。を。援。助。せ。し。て。そ。の。分。撥。せ。ど。定。め。ら。る。る。勢。都。合
 七。部。余。騎。環。々。と。て。圍。欄。く。如。何。も。要。屋。險。阻。も。あ。り。保。ち
 難。く。ぞ。見。入。り。り。り。然。れ。ど。當。城。も。さ。め。て。潰。滅。小。構。搦。て。近。國。を。双。の
 勝。地。あり。七。の。山。尾。七。谷。小。構。う。て。前。と。大。河。内。と。名。づ。か。す。後。と。新。野。尾。坂
 と。の。東。の。大。河。内。の。川。添。く。西。を。表。徳。寺。に。燒。跡。を。ら。く。備。城。中。大。國
 司。は。一。族。譜。代。の。諸。勇。士。之。方。余。人。極。威。を。張。く。激。守。之。に。進。兵。大
 軍。あり。と。い。ふ。も。更。小。臆。う。氣。な。り。四。方。攻。固。め。て。急。慢。甚。ま。り。宮。島。島
 城。も。見。入。り。り。信。長。四。方。小。指。揮。を。傳。へ。總。軍。一。時。小。攻。極。て。城。を。吐。し
 拳。う。た。れ。が。城。中。小。も。同。く。声。を。合。せ。啼。喚。する。その。管。ハ。山。小。鹿。下。溪。下
 富。一。て。慘。し。き。と。謂。ぶ。多。し。視。る。際。小。東。西。南。小。より。秀。院。を。放。門。と。雨

最百千弟此雷の臺地小墜る不見あり。城申も中より劣らじと頼り懸
 置らうなる。大木大石を吹落し。茲を以て途と拒抗せり。攻るる危濼乃
 勇猛士防ぐり勢南に忠義士あり。進小生死を顧む。烈火と有りて揮
 きらるる也。他軍自軍の戦死衆無夥しくありと云も。義名を重んじ
 命を授けんと進むを以て与と相。退くことを耻しむれば當日も夕
 哉ゆくと云も。勝敗を小見分るる。進を疲れて率退けば城も
 まうと射間賊を警。霎時窮むて休息す。信長遠慮を尚し進を
 多く傷ひしと大小愁るる。本下藤吉秀吉の微癪なるも
 癪を勇たれば保甚せよとて攻隊の内へ加らるる。遊軍を以て進
 を本下壁事の障小あり。今日の軍法四方の攻口。戦様の別贖ら
 防衛は曉曉と巡見し。其方便を考ふる。城を殊小強れば尋

常の軍小くは自軍終公士を傷ふのみにて容易落城を登ららば
 総構を破てのち再び工更を以て本陣へ参上。密小信長へ云
 状せしむ。若小も大小愁るる機會あり。あまを落城せしむる本
 下あらば有まじと頼りか。秀吉より指揮を以て
 余計らざる小より。藤吉秀吉謝總構を破る工更を按つけら。當
 城の四方八隅とも小。濼泊嶮胆の坂路小く。登る小難く。小湯熱々
 地理を考ふる。南の方龍藏庵坂の一方の。所破る小便あり。と視流
 する所あま。頼り遠方計魁降の大將。池田勝之介が陣小あり
 信懸小對面。悄悄地小告る。細るるや。當城殊小堅牢あること
 鐵壁小も猶勝る。急小の攻臨をべふとも見へ。是れはながら方術
 どのつて惣構を棄る。遠方より鹿垣を結遠し。城より夜鼓のみら

さうやう小幡夜きびしく要鎮さ。姑く軍を止え在らば城中
 次第小遣屋へて。うらむ内裏をせむべし。さし惣構を棄取
 得容易ならざる事ぞし。是下備方僅某が。稟を所小越これ
 一撃力なり。玉ひなば一番。宗社功名疑ひあらじ。南一宮破るに
 の二宮も候ひて破まん。然らば遠方の撃力ハ大功随一ありぬるを
 答い。小と密語をば。信輝大少軟弱。是こそ望むところなり。怖
 くば總構を破る方術を教らば。只管をせしむ。藤吉野
 若て細やう。是下の攻は能藏庵坂を南。且は。市場の難といへ
 あり。是地最も高なり。城は防所ハ所を。暇下小視流を絶不也
 闇夜を討く市場驛を弛通。それより隙を小進。以て城中防
 禦の志士軍らし。後の險固小心をく。踏止る備偶ひ。二九當

て率退ること疑ひなり。其余ハ如うやうくと奇密をのり
 教指し。信輝大少洋脱。所時も登く準備せん
 こと。後者軍小公糧を喫。頃ハ八月廿八日。池田
 夜。池月をひけ。と。坡路の周を。事をもせむ。土倉。四所を
 所。桐守。八本。右。外。道。五。百。余。人。能。藏。庵。坂。は
 陣を脱出。志のびく。小推。上。り。て。市場の驛。小。近。り。心。利。を
 士。と。り。て。敵。陣。の。境。候。を。窺。む。小。遠。方。を。守。る。大。將。ハ。日。屋。大
 膳。宛。家。本。主。水。其。糧。一。千。五。百。余。騎。の。ぎ。も。武。勇。ハ。者。ら。ね。と。も
 今朝より黄昏まで。終日の軍小疲果。大將帷幕を。れ。籍。を。六
 駿。車。ハ。飛。を。枕。と。す。若。後。も。志。を。熟。睡。せ。り。と。池。田。の。細。水。を。これ
 沈。視。し。走。返。り。き。し。く。信。輝。か。の。志。雀。躍。す。後。小。天。の。興。不



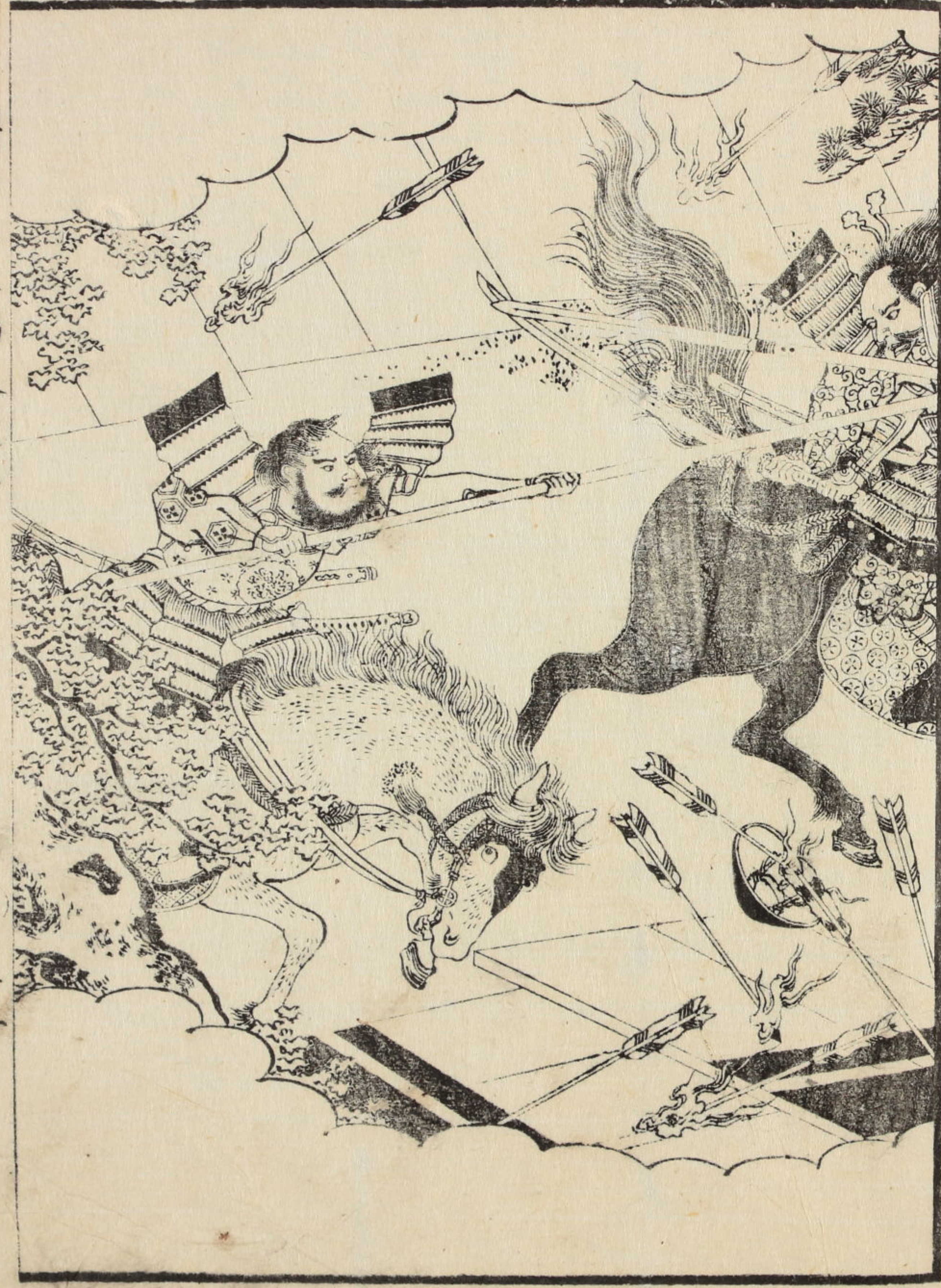
池田信麿
市場驛より
大河内の
惣構へ
一番騎す

東日本言三糸巻巻之三

一先と騎へく。縦横に激し擧起斬伏。矢旋つをうかよに。一千
 五百は城名軍。不意を敵きて。他軍自軍の差別も更小勇決
 め得を火矢に。光里を援便小く。防ぐんとままど池田の云士電
 光石火の飄散ごとく。烈奈激弛一たるかど小。いろ小も大坂のゆう小
 かりをま。心臆して。端を免ぐる。遠場の防戦うみひじし。と遠足
 出して逃走。遠隊の守將日置大膳。家本を水の西人。破らまほ
 と驟斬をねし。激音く進出小。強向ふと。池田の老黨土倉山。急津
 澁を撫く。家本小敵討。主水も関ふ。勇士あり。太刀うち奮て。ころ合
 戦ふ。羽を土倉が明軍。八本笹右衛門。横際より。正一門地小。棚巻る。主
 水勇猛あり。とりへも。両士小敵。まことあり。二丸さして。退けバ
 土倉も八本も。こまを打棄。残る。云士を吹崩し。烈しく競ひ。蒐る。てんて。

響あり。面々粉骨せらまよと。競めれば。進まらる。柵際をく
 ると。むとしく。勝之師指揮あり。二百人の射手と。あへたの
 先へ伍連。儲も後小。騎馬武者二百騎。響せつ。孫て勤。さ。せ。び
 響。号せ。や。う。る。小。ぞ。二百余人。一。敵。小。つ。み。げ。る。像。く。起。露。れ。奉。下。り
 小。柵。の中。へ。火。箭。を。射。惹。る。こと。暴。雨。の。如。く。遠。東。西。向。は。書。を。軍。
 慌。張。も。目。を。醒。し。顔。を。の。り。げ。て。見。え。く。あ。ま。び。を。柵。内。小。火。移。り
 て。遠。不。明。下。り。燃。燄。を。敵。を。柵。際。を。進。来。り。て。喊。を。一。吐。小。揚
 う。り。し。う。ふ。を。い。や。敵。を。近。き。た。ま。疾。出。命。と。呼。も。ま。ま。も。響。擧。起。ら。る
 眠。溺。眼。小。陰。一。條。を。二。人。之。人。と。せ。遣。ら。し。と。把。着。て。牽。ふ。も。あ。り
 太。刀。小。刀。注。鞋。や。ら。鞠。や。ら。分。も。せ。ど。か。の。ま。ま。と。ま。足。を。刺。も。あ。り。慌。忙
 き。途。惑。ふ。所。を。池。田。に。云。士。五。百。余。騎。并。小。子。小。柵。木。を。擊。破。り。我

龍藏庵の坂の家木主水血戦



日置大信自擧小指揮ひきおほのぶねよりおこし。致向いたむとんとりたるが池田信輝いけだのぶねが一隊の勢いきほ。たは末陣すえのりを龍蛇りゅうだの係かこ。島地しまち小進こしんむせ賄まへりて。遠方とほに軍も大軍おほいのみまじも。倘もし坡口のりを塞ふさがまてい邊へ投なこと慍い之をなを。早はやく二九ふたご小邊こしんひてよくちる少すく然しかとと思案おもはん。そま采馬さいばを返かへしるまは池田いけだにこ士し悉ことごとく。競せき進しんんを接起つぎし小難こなんねく惣構そうがまへを騎のり面めんく。隊たい伍ごを達たてど持固もちこめける。

坂井父子さかいふし騎取かき小方こ惣構そうがまへ属ま楠くすの討う夜よ殿だん

人眠ひとねまて天地てんち亡なぶとい荒あ之を小似ことまど方かた僅ひま日置ひき家いへ本もと所ところの夜よ殿だん小破こやぶり駿卒しゆんそつをかりバ漫まん云い小もあらざるべし。然しかバ池田いけだにこ五ご百ひゃく余あまり騎かき。惣構そうがまへ小こ系けい投なる。隊たい伍ごを固こ免めんたりし頃ころも夜よも稍やや曉あけく陸りく難なんなり。東とう北西くわいせいの進しんを倣なる。池田いけだが南なんの惣構そうがまへを攻せめ破やぶじと听きしりも。意い差さ次じ一いちや

俺おれ們らとても進しんる時ときハ一同いどう小推進せいしんせ来きりしれり。小何こなとて池田いけだ小後こごれしを。速すみ綱な投なる。養やう枝えをせよ。進しんめくと呼よりりく。大將たいしやうに指揮しを待まちべこそ。二方ふたかた同時どうじ小人数せんにんずを操さうせ。惣構そうがまへを撃う破やぶらんと與あ味あじんで操さうる。城しろを隨したが分ぶん防ぼぐといとも。既すで小南せなん方かたも破やぶる。進しんを完くわん満まんせし小。防ぼぐ力ちからもあつと挽ひこ心こころ懐なく。礼れいを四よ夜よ殲せん小ありて見みたりと進しん兵へいいよく精神せいしんを振ふひ。接起つぎく攻せめる中なかも北方ほくほうの勇士ゆうし坂井さかい右近みぎ廣ひろ坂さか口くちと一いつ系けい小騎せうき投なる。并ならぶと戦いくさる。遠方とほに大將たいしやうを屋や尾お興きよう。水みづ首くび刑けい此こゝと号途ごうとと防ぼぐといとも。進しんるも流ながる。大將たいしやう名な小員せういん坂井さかい父子ふしなる。殊こと小婿せう男おとこ久ひさ成なり重しげ。正ただ魁けい小進こしんんを擧あげ。城しろを方かた僅ひまを防ぼぐ。右みぎ倒た顛てん小散さん乱らん。二ふたの丸まる當あたり敗ま走そうせり。島しま屋や尾お水みづ谷や大小おほい怒いかり。怯おそる自軍みづかみの奉ほう止とり。軍いを新あらたこそむせり。の

且と時止つて戦ふ。坂井久藏渡合せ。水谷刑部小堀と薨る刑
 部莞尔とうち笑ひ柔輦小児が拳動り。遠陰鋒を會せしこれん
 と突出するを事ともせむ。水谷が陰を別隊し。只一擧小と勢以極
 激出する坂井が陰を突過つて隣る。石小喝止と突當り。陰
 け尖者柱と折らり。水谷得たりと太刀ぬれ。じ久藤目當り撃て
 薨る。心得りりと馬を騎下。身せりりと際小を力指放ち。唯一段小と
 馳咆る。水谷が部黨を視て。危や主人の敵をんごる。一団小隊
 括そらて突薨る。右邊政尚遠方小見く。馬を跳らせり。水谷
 が部黨を四角八面小斬伏く。憤怒を發して。弦旋をば。水谷之後
 々小くたぬらん。隙窺ふく。此れをば。二の九當り連投する。坂井又この
 隙を攻入らんとす。つれども。坂井涙も難なる。人續く自軍も疎

されば一息絶く。馬を回小などく。秋藤新五郎蜂谷。名庫領深田中
 條藏田が族軍。退く大勢。騎投く。小方既小被り。西東の進軍
 の勢も。こま小劣らむ。攻る。後小城中。まじく。狼狽。旋も。惣構を弁
 て。此れ還り。殺下と守りて。防んむ。進も。際も。せす。激
 波の漢舟とあやう。儼く。競。薨る。攻起り。唯一捲小崩れり。は
 二の九へ連投り。大は。小依く。東西南北。一被小吐と。勝。減と。あ。げ
 總構を。そ。案。取。く。遠。由。本。陣。へ。言。出。せ。る。信。長。大。小。後。び。こ
 多。ひ。昨。日。の。當。城。を。攻。ん。と。多。く。は。公。士。を。傷。ひ。小。今。日。の。本。小。が。勢
 暗。小。頼。く。南。北。破。を。紐。こ。遂。小。之。方。と。一。飲。小。攻。抜。つ。事。心。地
 多。き。た。小。も。右。小。も。本。下。の。城。攻。小。妙。を。得。り。と。深。く。賞。ひ。受。ぬ。一
 至。ひ。惣。構。の。う。ち。小。鹿。垣。と。城。小。向。く。結。せ。る。一。城。中。の。通。路。を

坂井久藏

廣坂口

一番騎

勇戦



してかく。秋義小こせの見へり。是も原東軍城の準備せし方
 あり。是も種矢九遷し。水注道も自由あり。是も軍
 備せし。困窮をたふせし。是も後援の頼援も。只
 累代の忠臣。我士の。城を堅固小守り。進軍も大軍なり。是も
 四方絶望の像も。要崖を。徒小瞻仰の。小。攻便を。見へり。是も
 是も八圍き八回の城を。捕七舟。是も正具。大河内の。味。所を。と
 困者。容を。せり。小。織田の軍勢。七萬余騎。大河内の。本城を
 圍。惣構を。嚴。鹿垣を。結。か。近攻極。る。人
 還小。城を。た。急。た。小。も。あ。と。軍を。止。徒小
 四五日。過。し。空。楚小。を。所。か。奇計。を。廻。して。敵
 田。の大軍。小。泡。吹。さ。る。と。大河内の。東川。小。階。て。敵

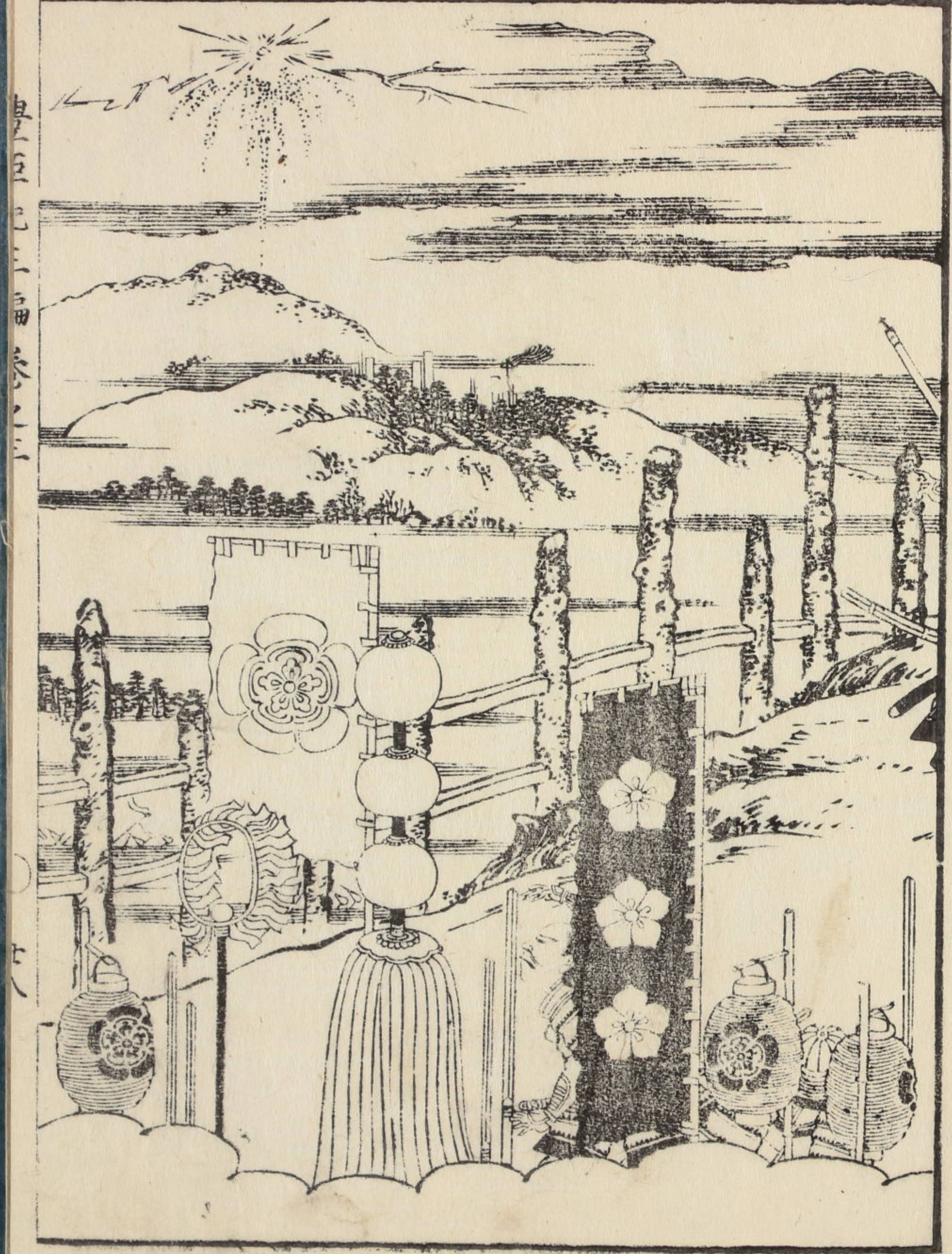
とり。兵あり。遠城中。國司の忠臣。安居新九郎と
 い。り。の。一。千。余。騎。よ。て。對。敵。せ。り。彼。二。勇。士。小。一。方。を。擊。せ。我。亦
 其。尾。を。毆。べ。し。と。其。計。略。を。さ。る。く。に。工。支。し。捕。心。松。本。孫。四
 舟。と。り。者。を。使。り。て。謀。計。を。申。合。船。江。の。城。へ。遣。り。し。る。彌。四。舟
 情。小。彼。地。小。到。り。安。保。安。居。小。對。面。し。書。翰。を。出。し。て。密。山。謀。計。次。第
 を。具。小。演。言。し。る。は。二。人。久。小。軟。弱。を。我。侮。も。預。て。此。日。來。夜。敵。を。止。せ
 進。軍。を。一。怖。驚。し。本。城。小。嚴。守。門。々。の。勇。氣。を。増。ん。と。か。ひ。ひ。と。も
 然。る。も。奇。術。を。得。り。し。由。へ。點。止。し。し。が。捕。心。具。斯。堂。の。補。助。あり。る。は。鹿
 小。翼。此。生。ぜ。し。像。し。と。銘。せ。し。由。の。返。辭。を。松。井。小。傳。へ。り。八。田。へ。返。し
 願。後。捕。が。奇。計。小。像。せ。城。下。の。河。へ。數。十。艘。の。船。を。送。り。て。是。小。奇。計。を
 是。り。と。せ。り。大河内の。川。使。ひ。小。信。長。の。奉。陣。桂。嶺。山。を。發。し。んと。す

体せり。安保、安房の両將の遣兵七百有餘をせり。密小園道を經
 巡りて、西の方より殿で發進兵を劫さんと計せり。遠征の準備
 そのひろき、九月五日の夜、天より船條の船槎七川へ送り、船
 とみし、れが安小遠をもと織田家の斥候此所見を怪しくかり、疾
 本陣へ江仲を織田殿こきを祈りし。不敵の奴軍が挙動あり、此
 かり。志の殊勝なる小面と。尚進来り、一個も餘さむ殿提やとて
 旗本江仲を率分、河階の殺なく小槎休させ。殿后、攻口の諸將
 へ指揮を傳へ玉ふ、やうの縦令、敵を本陣へ斬蕘する事ありと
 のふとも。決してこきを救ふ、暨をど各持はく、堅固小守を以てし。
 急り、とちと洩流し、嚴備小備く、後といふとも。敵一人も進来らむ。
 時、小畑智光秀ハ、敵の奇兵を大軍惜し。信長小まうし、はう、是こそ

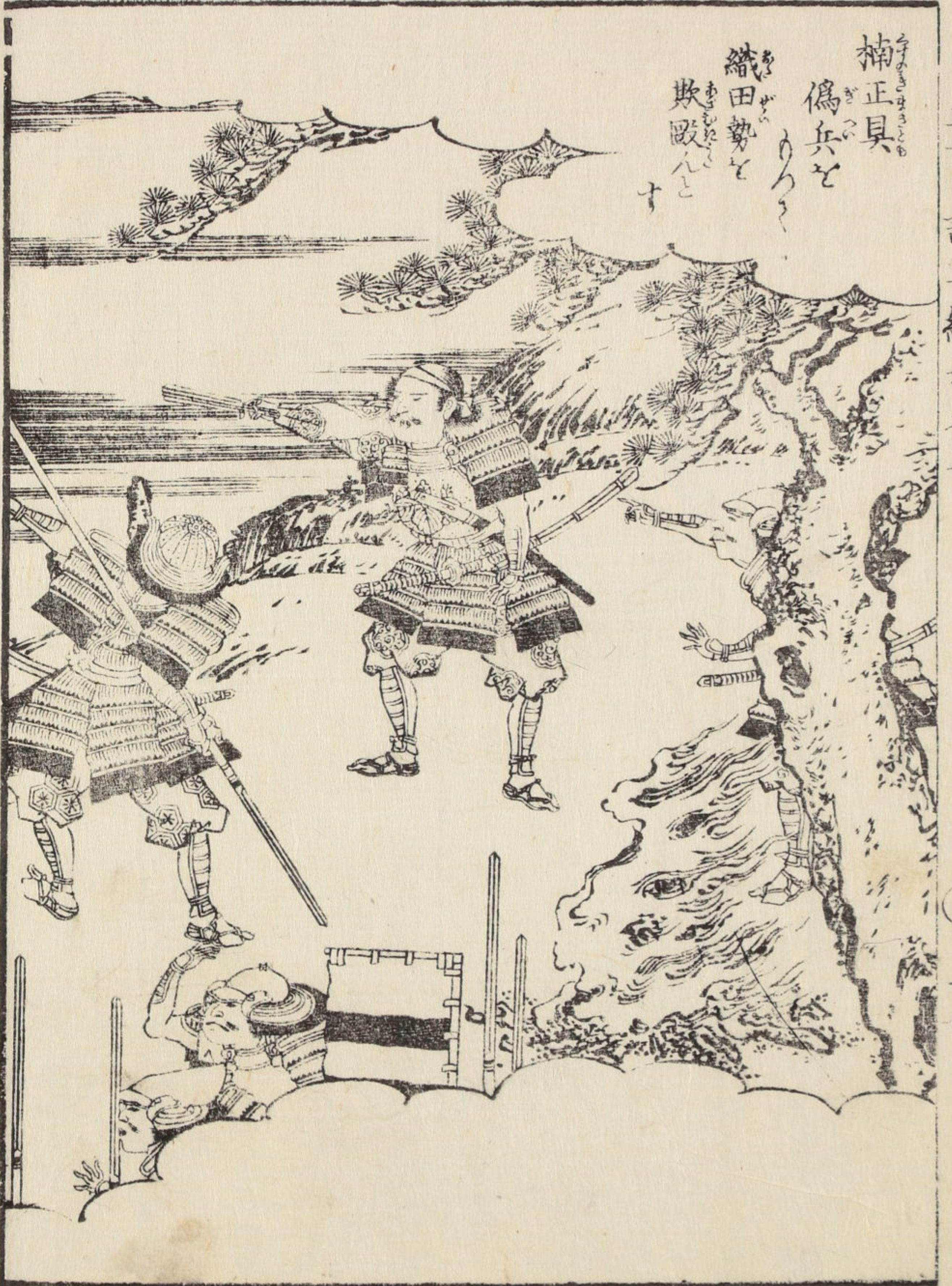
敵の備兵なるらぬ。船路より進る、体とて、自方小防衛の準備をなさせ。
 終日、兵士の身と、極し。疲らむ、後、陸路より。不意、小夜、殿と、なさん、守、練
 る、の、け、あ、る、べ、い。審門、知る、敵、軍、な、れ、バ、所、用、心、を、肝、要、な、き、と、云、出、さ、る。
 小信長も、實、小、も、と、お、が、り、め、さ、ま、し、く、六、陣、中、一、回、へ、洩、兵、さ、ま、ま、と、云、敵、の、本、陣、
 な、さ、を、玉、ふ、木、下、秀、吉、形、と、圖、より、重、地、小、本、陣、へ、来、上、り、敵、の、所、用、心、
 を、命、出、さ、れ、ゆ、こ、と。敵、の、備、計、小、楯、を、玉、は、り、ゆ、敵、の、魂、胆、を、寝、以、て、
 必、竟、隙、を、攻、ん、と、さ、る。諸、將、の、陣、を、攻、ん、た、あ、ふ。敢、意、と、大、將、の、本、陣、小、
 蕘、する、の、さ、な、せ、つ、え、せ、つ、う、ふ、て。實、ハ、所、陣、小、向、ふ、あ、ら、ば、敵、小、も、謀、士、あ、ら、べ、
 とも、小、所、賢、所、陣、筋、なく、敵、の、機、小、圖、り、密、小、密、と、漸、美、略、あ、る、べ、く、
 小、以、只、管、諸、將、の、陣、へ、自、分、く、を、嚴、重、小、守、る、と、言、最、烈、く、所、
 指揮、あり、と、云、ら、る、べ、い。遠、敵、ま、と、し、漸、本、陣、を、襲、ん、とい、ふ、本、意、な、ら、ば、
 漸、

頭小船を遣へ奇兵を見せくも体は頭を事のひび死虚實変化
 軍の平日あり。此と攻んこく彼を絶ひ南を毀んこくお進別
 て別や河本陣あり名譽は勇士多くをて發備する備と敵も知
 たり。多くや船に小瀬寄る者も一十余人およも過はじそ軍の
 うちを奪く。敵て出るも知らる。五六百より多くあらじ其計なる軍
 あり。いっ小瀬く播けごと。斯く河陣の堅固なるを容易夜敵のなき
 ぞ些も怖る事ならねど。遠遭の政企なきに船にの軍のそはあらじ。
 必定別城小謀士ありて力を勤せしめたりん。よく河思慮を願を也
 やと流を信長所しゆし。強小りともと譲受たまひ所時小斯と洵波さ
 是既不當夜も寅の刻曉をくぬるといへども。夜敵の軍久更おなく最
 穂小舟へたりはと。おははい小と陣々小。侍設る名の勝氣催を自ら。

後とちなる機會うら小桂瀬山の形方より。松炬の光を以小見は漸く
 とくぬる近も。知らで座懸をさじ。行候の發率小驚され。おははい
 小とのふやとに。炬次小員重と。火法より。影の旗山風小吹靡
 せ。遠も小所ゆる。標を鼓小陣く。ちまち發ををいや。夜敵の進来るは
 速出會や人をと。呼りく。純廻と。信長些も發ををを。釋小井播
 へ。鬼揚る。遠を和と見と。あふ小いうさる。殺すの敵ありて。推進来るに覺
 たり。然バ約束せし如く。旗本の名士を分發して。そまぐを。防がんと。河指
 揮あるを。明智光秀。遠松炬を奇兵小して。大勢進る。氣色のこなり
 夜敵を遠外小ありぬべし。と。智も果ぬる。小右の山は。旗より。名流の
 名一發を。それと一時小威をつり。水陣へ進る。勢あり。光秀。備を起
 揚り。こまこそ。伊勢武者の随一と。所へ。楠正具が。勢あり。おははい。や。麓



豊田言三 綱卷之三



楠正具
偽兵
織田勢
欺敵人

豊田言三 綱卷之三

小一立て一軍せんと號するを本下要時と推止め。両方とも小備あり
 決して實に進まざるを棄てざるをわいのづら退散をせしと諫むる
 也。更小耳小も听容を惕切なる壯士軍。响方らと亦て出夜殿を遮
 んと勇めけと欲と思ふを声のそく。影も形も易句見を何方を當て
 戦んと討りなぐら馳り。喊の声を的心して撃向へる返り。或は
 源田武の腫徑まゝに踏みきりへ推進せ。願ひ例まてふとめくあはる
 て返して懐あり。那答上遠巻よと發動をともむる風々と曉り
 けを

繪本豊后勲功記三編卷之三終

